

令和9年度4月入学

大学院人間文化総合科学研究科（博士前期課程）入学試験問題

【一 般 選 抜】

【外国人留学生特別選抜】

人文社会学専攻 社会学コース

〔 専 門 科 目 〕

試験日：令和8年8月28日（金）

注 意

1. 解答は、問1・問2・問3のそれぞれに対応した解答用紙（3枚同封）に記入すること。なお、それぞれの解答用紙に受験番号及び氏名を記入すること。
2. 総ページ数 — 6ページ（第1ページは白紙）
3. 試験終了後、この冊子は持ち帰ること。

問1 次の図は、家族や友人など、誰かと一緒に食事をする（共食）の頻度と孤独感との関係を示したものである。これを参照しながら、以下の a)、b) に解答しなさい。解答に際しては、解答用紙に a)、b) を明記すること。

- a) 共食と孤独感との関連について、図から読み取れる特徴を 3 点挙げて説明しなさい。
- b) 共食の機会の欠如を社会的排除の一形態と位置づけることはいかなる意味で妥当か。社会的排除の概念について説明したうえで論じなさい。

図は、著作権の関係で掲載しておりません。

図 共食の状況別孤独感

資料 図は内閣府「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和7年人々のつながりに関する基礎調査）」より作成。調査対象は全国の満16歳以上の個人20,000人（住民基本台帳を母集団とした無作為抽出法により選定）、調査期日は令和7年12月1日。

https://www.cao.go.jp/kodoku_koritsu/torikumi/zenkokuchousa/r7.html

共食に関する質問は「あなたは、家族や友人など、誰かと一緒に食事をすることがどのくらいありますか。（○はひとつだけ） 1 ほとんど毎日 2 週に4～5日 3 週に2～3日 4 週に1日程度 5 月に1～2日程度 6 ほとんどない」、

孤独感に関する質問は「あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

（○はひとつだけ） 1 決してない 2 ほとんどない 3 たまにある 4 時々ある

5 しばしばある・常にある」

問2 下記の文章を読んで、以下の a)～f)に解答しなさい。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

出典 マーティン・ハマーズリー著，谷川嘉浩訳，2022，『質的調査のジレンマ 上巻』，勁草書房．2-4．〔 〕は訳者による注．

- a) 【 ① 】に入る地名を答えなさい。
- b) 下線部②について、質的調査がどのような状況に置かれていたかを 200 字程度で記述しなさい。
- c) 【 ③ 】に入る社会学の用語を答えなさい。
- d) 下線部④について、アメリカの社会学では当時どのような議論がなされていたか。300 文字程度で記述しなさい。
- e) 下線部⑤の「構造一機能主義」を英語で答えなさい。
- f) 下線部⑥は日本語の漢字ではどのように表記されるか。

問3 次の設問のなかから2つを選び解答しなさい。なお、解答用紙にどれを選んだか明記すること。

- a) 「Intertextuality」を日本語に訳したうえで、具体的な事例を挙げながらその概念の意味を説明しなさい。
- b) 「文化資本」という概念について詳しく説明しなさい。
- c) 「相関」と「因果」の違いについて、具体的な社会事象を挙げながら記述しなさい。
- d) 社会学における方法論的個人主義 (methodological individualism) と方法論的集合主義 (methodological collectivism) の対比について、それぞれの代表的な論者、および具体的な社会事象を示しながら記述しなさい。
- e) 国際移動あるいは国内移動とジェンダーとの関連について具体的な例を挙げて記述しなさい。